

佐賀県高等学校

P T A 新聞

発行 佐賀県高等学校 P T A 連合会
佐賀市成草町 7 - 29
電話 0952(29)2573
F A X 0952(26)5435
印刷 大同印刷株式会社

塞翁が馬

会長 小出 邦彦



「あまちゃん」等明るい話題もありました。そして地元九州のニュースとしては、JR九州が約三十億円を投じた車両を使用する豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」が運行を開始し、夢と希望を与えてくれました。

明けましておめでとうございます。希望も新たに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年を振り返りますと、なかなか進まない東日本大震災の復興に加え、解決の目途の立たない福島第一原子力発電所の汚染水の漏えい問題、多くの犠牲者が出た伊豆大島の土石流災害、全国調査のきっかけとなった大

阪市立桜宮高等学校バスケット部生徒の体罰自殺事件等、多くの出来事がありました。そのような中、I O C 総会において東京が、二〇二〇年夏季オリンピック開催都市に選出され、富士山も世界遺産に登録されました。また、東北楽天の田中将大投手が、日本プロ野球新記録のシーズン二十一連勝と世界記録となる通算二十六連勝を達成し、テレビ界では、「倍返しだ」の名言で高視聴率を生み出したドラマ「半沢直樹」、「じえ

じええ」に始まり、番組終了後に「あまロス」症候群を発症させたNHK連続テレビ小説頭の挨拶といたします。

唐松地区

当番校 唐津東高校

平成二十五年度佐賀県高等学校 P T A 連合会唐松地区高等学校教育振興会指導者研修会が十一月十三日（水）に唐津鶴城同窓会館で、開催されました。佐賀県高等学校 P T A 連合会会長小出邦彦様、事務局局長香月英二様、唐津市教育委員会教育長大塚稔様、唐津市青少年支援センター所長宮口蝶子様、佐賀県教育庁学校教育課主幹池田典穂様を来賓に迎え、七十五名の保護

佐城地区

当番校 致遠館高校

十月二十九日（火）、佐城地区の各学校から保護者・関係職員約百六十名の参加のもと、平成二十五年度佐城地区指導者研修会がアバンセホールにて開催されました。来賓には県学校教育課主幹の池田典穂様、佐高 P 連会長の小出邦彦様、佐高 P 連事務局長の香月英二様をお迎えしました。

開会行事では、当番校（致遠館高等学校）の伊東猛彦後援会会長が挨拶をされ、佐高 P 連の関係各位のご尽力に対して、深い敬意と感謝の気持ちを述べられました。続けて佐高 P 連会長の小出様が挨拶をされました。また、「思春期の子どもの向きあい方」と題してスクール

者、教職員の参加がありました。研究主題を「食育を通して家庭の教育力向上」として、講師に九州大学大学院農学研究院園芸学分野助教の比良松道一様を迎え、「食べてつながる命、育つ心」という演題で講演を実施した。



講師の比良松先生

小学生に「なんで食べるの？」という質問をぶつける。すると大半の子どもは「おなかがよくから！」と返事をする。勿論、これは人間が持つ本能的な行動であり、おなかがよくから食べるということは健康な証拠でも

ある。しかし、中には「食べることで唾液が分泌され、健康で長生きができる」と、学習の成果を披露できる子どももいた。現在大学の講義では、大学生たちが、失われたつらある食文化のデータを目の当たりにし、「どうすれば日本の農業が守れるのか？」と問題の本質を探ろうとしている。そこで提案されたのが「一品手作りお弁当の日」だ。これは、先生が行う「自炊」というゼミの「コマだ」が、学生たちは試行錯誤しながら「一品」の手作りの料理に挑戦する。これから、「食」を通じて家族団圓のひとときを楽しんでみよう！やはり実践あるのみ！「食育」とは、子どものチカラだけではなく、わたしたちの親力も試されるという壮大な教育である。

家庭での団圓が増えると予感させられた講演であり、有意義な研修会になりました。

《井上 和弘》

年の健全育成と P T A 活動の活性化を推進するため、P T A 指導者の資質の向上を図る。ことを各会員がしっかりと学びました。

《丸尾 樹範》



県下一斉合同列車指導

十月三日（木）、佐賀県高等学校生徒指導連盟と合同の列車指導（下校時）を行った。佐賀駅構内で行われた出発式では、小出邦彦会長が挨拶で参加者を激励。その後分かれて佐賀駅乗降指導や列車に乗っての通学指導を行った。



出発式風景

お知らせ

- 来年度の佐高 P 連「会費」と全高 P 連賠償責任補償制度の「掛金」は、今年度と同額です。
- 佐高 P 連事務担当者会議
四月二十二日（火）十四時
「グラデはがくれ」
- 佐高 P 連定期総会
六月四日（水）十四時
「グラデはがくれ」
- 九高 P 連大会
「きばれひとつとべ鹿児島大会」
六月十九日（木）
二十日（金）
- 「鹿児島サンロイヤルホテル」
「鹿児島市民文化ホール」
- 全高 P 連大会福井大会
八月二十一日（木）
二十二日（金）
二十三日（土）
- 「サンドーム福井」
「福井フェニックスプラザ」
「敦賀市民文化センター」

ほか

春 秋

「沖繩にて」

十一月下旬、出張で沖繩へ行った。出発の当日は寒く佐賀は四度であった。天山は初冠雪で白くなっていた。向こうへ行けばそんなに寒くはないだろうと思い、夏用の背広に朝は寒かったたので小さく折りたたみができるウインドブレーカーを羽織って行った。二時間後、沖繩に着くと二十度、出発時より十九度も高い上着を脱いでワイシャツ一枚で寒くもなく、丁度良い。

車で出張先まで行く途中に、道路の両側の歩道に、遠くから見ると「さくらの木」と見間違えうようなピンクの花が満開の木があった。近くで見ると花弁は大きく花の直径は十センチほどである。この季節にこのような美しい花が咲いていることに驚かされた。陽気で派手な咲きっぷりは南国の日差しにぴったりである。後で調べてみたらトツクリキワタという。幹は下のほうが膨らんで、徳利形であるので名前はここから来ているとのこと。更によく見ると幹は刺（とげ）だらけである。刺は外敵から身を守るため？この木に登れないようにするため？何のためにあるのだろうかと思われた。まさに、きれいな花には刺がある木である。

佐賀と沖繩の気候がこれほど違っていると、植物もほとんど同じものはないようだ。沖繩の方と話してみると非常に鷹揚（おうよう）な方が多い。私もこの環境で三日間ゆったりとした気持ちに浸ることができた。

多久高等学校
校長 小池 雅文

シリーズ No18

頑張ってるわ!! 輝いてるわ!!

今年の有田工業高校生徒会はとも輝いていました。通常、四月の歓迎遠足に始まり、毎学期のクラスマッチ、九月の体育祭や十一月の文化祭などの企画と運営を行っています。今年には更に大きな行事が二つ加わりました。一つは北部九州総体アーチェリー競技のサポート校の仕事です。早朝から広い会場内にたくさんのプラントを運搬・設置し、冠水作業を行いました。また、炎天下や突然の豪雨の中、会場内の大量のゴミの回収・分別やトイレの管理など、裏方として大会を支えるために力を尽くしました。それでも、全国から集まった選手や観客の方々に笑顔と元気な挨拶、おもてなしの心を忘れず業務を果たしました。もう一つは甲子園応援席での仕事です。照りつける太陽の下、広いア

「おもてなし」

有田工業高等学校 生徒会

ルプススタンドを回って応援する全校生徒へ、試合中何度も冷たい飲料水を配りました。また、試合終盤にはスタンドに散らばり、一般の方も含めてゴミの持ち帰りを呼びかけ、試合後はゴミの回収を行いました。振り返れば、四月から十一月まで活動しなかった月はない、そんな今年ならではの忙しさでしたが、たくさんの笑顔を引き出すことができた輝かしい活躍だったと思います。



年サット甲子園二〇二三 優勝 日本代表に決定 唐津東高等学校 科学部



本校では、缶サット（模擬人工衛星）、モデルロケット、水口ケットに関する研究を行っています。

今年度の缶サット甲子園は、全国三十二校の中から地方大会を勝ち抜いた十校が北海道赤平市に集まり、八月二日から四日にかけて熱戦が繰り広げられました。

全国大会では、ロケットで缶

サットを打ち上げ、上空一〇〇mで缶サットが放出され、パラシュートで減速しながら、温度、気圧、動画等のデータを収集します。本校は、昨年度の反省を生かし、「惑星探査ローバー型缶サット」を作成しました。これは、火星表面を調査している火星探査機をイメージしたもので、着地後、缶の両端の車輪が回転し、動画を撮影しながら無線走行できるようにしました。このような点が評価され、優勝および技術賞のダブル受賞となり、日本代表として二つの国際大会に出場することとなりました。

九月はアメリカネバダ州ブラッ

クワック砂漠で開催された、大学生の小型模擬人工衛星の性能を競う大会 AR L I S S にオブザーバー参加し、全長約三mのロケットで高度四〇〇mまで打ち上げ、実験を実施しました。しかし、缶サット放出時の衝撃があまりに強く、一日目はパラシュートの紐が切れ、本体が自由落下してしまい、砂漠を一時間ほど探し回って本体を回収することができました。物理データは取得できませんでした。動画映像の撮影には成功しましたが、二日目は改良し、無事に本体を回収することができました。

また、十一月一日に開催されるアジア太平洋地域宇宙機関会議 (APR S A F) 缶サット大会には二年生二名、一年生三名の五名のチームで参加しますが、これまでの大会の反省を生かして、さらに改良を加えた機体で、優勝を目指したいと考えています。

杵西地区

当番校 有田工業高校

杵西地区の指導者研修会は、十一月八日（金）に有田ボーセリンパークにおいて、十校から十二の単Pで五十七名の参加者で開催されました。開会行事には県高P連より会長小出邦彦様、事務局長香月英二様にもご参加を頂きました。

研修会では「共に学び、共に育つPTA活動を目指して」という研究主題を掲げて進めていきました。まず、西九州大学子ども学部教授であり、本校のスクールカウンセラーでもある高尾兼利先生に「子どもの携帯電話に親はどう関わっていけばいいか」という演題でお話をして頂きました。

内容は「携帯を家の中でも持ち歩く子どもは、止めたくても止められない状態になっているが、これはお酒やタバコと同じであるということです。依存症にならないよう、子どもに理解を示しながら少しずつ減らしていくようにしていくことが大切です。LINEによるいじめが社会問題になっているが、自



講師の高尾先生

《草場 龍介》

分の子どもがいじめの側になっていないかという心配が親になることが問題である。」ということ、うなずけることばかりでした。

その後、事例発表として二校のPTA活動が紹介されました。伊万里農林高校からは「伊万里農林高校におけるPTA活動について」のテーマで各専門部の取り組みによる挨拶運動、校内での体験型研修、諸行事への参加などが報告されました。杵島商業高校からは「後援会組織と活動について」のテーマで視察や校内巡視のほか、三年生に粘り強くなって欲しいという願いから餅つきを行っているというユニークな報告がなされました。

鹿藤地区

当番校 太良高校

平成二十五年度鹿藤地区高等学校PTA指導者研修会が、十月五日（土）に鹿島市の清川にて開催されました。今年度は、来賓として、県高P連より会長小出邦彦様、事務局長香月英二様をお迎えし、鹿藤地区の六校から約九十名の参加者が集まりました。

開会行事では、鹿藤地区事務局である太良高等学校PTAの木原秀憲会長の挨拶があり、来賓の小出邦彦会長からもご挨拶をいただきました。

《各学校PTA活動報告》

登下校時の交通指導や挨拶運動、ボランティア活動や面接指導、体育祭や文化祭への参加、スポーツ大会や視察研修の実施など、各学校より趣向を凝らしたPTA活動の報告がありました。

《講演》

「子どもをネット社会の被害者にも加害者にもしないために」という演題で、総務省九州総合通信局情報通信部電気通信事業課長武永次男先生より講演をしていただきました。

加者も真剣に耳を傾けていました。

その後、事例発表として、鳥栖高校のPTA活動について古財会長が発表されました。キャリアアップランニングなどPTAとして子どもにできることを毎年改善しながら取り組んでいるという発表内容でした。

この三神地区指導者研修会において、講演により大きな刺激を受け、全国及び九州の各高校のPTA活動の状況や三神地区内のPTA活動について情報交換ができ、実りある研修会になりました。今後も家庭と学校との協力・連携を図って共に教育



《戸上 信幸》



研 修 会

講演の中で、「インターネットのトラブル」について具体的な事例やDVDを交えて詳しく紹介していただき、インターネットを安心・安全に使うためには、家族間でルール（いつ、どこで、いくら、何を）を決める必要があるということでした。ルールの例としてアメリカのある母親が十三歳の息子にスマートフォンを渡したときの十八の約束を紹介されました。

講演後参加者からは、すぐにも子どもとルールを作りたいという意見や、もっと多くの保護者の方にこのような話を聞く機会を作ってほしいなどという意見も出され、有意義な研修会となりました。

《栗山悠里子》